

あとむ

姫路科学館友の会会報 第163号 <2019年11月> (友の会事務局発行)

秋深まる

紅葉の美しい季節を迎え、科学館のまわりの木々も赤や黄色に色づき始めました。市街に目をやると、色とりどりのシデに囲まれた秋祭りが終盤を迎えてます。祭を通して、地域の輪が広がり、人々のつながりがより深まる播州の秋です。

さて、友の会では9月に「お米教室」、10月に「植物教室」を実施しました。「お米教室」では、昨年度に引き続き、お米マイスターの岡田源太郎さんを講師としてお招きしました。岡田さんの言葉から、いくつかを紹介します。

- ・冷水の方がおいしく炊ける。
- ・米の量の約1.2倍が水の量
- ・お米の値段は産地でほぼ決まる。
- ・常温での保存は、夏は2週間、春秋は1か月くらい。
- ・炊飯器の説明書には「米をとぐ」ではなく「米を洗う」と書いてある。精米技術の進歩。
- ・お米甲子園がある。
- ・お米のランキング「特A」



今後、友の会では、11月に「コーヒー教室」を実施予定です。また、科学館では「第55回姫路市児童生徒科学作品展」を開催中です。皆様のご来館をお待ちしております。

(友の会会長 上田倫範)

館長の科学館だより

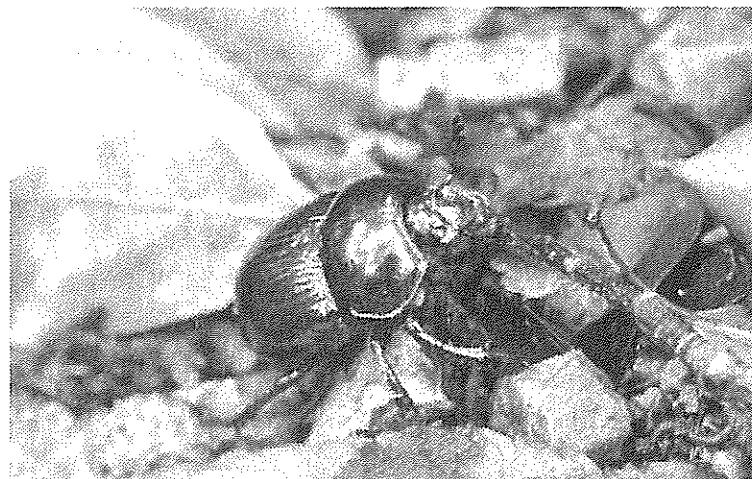
9月の初めに京都・奈良へ採集と観察に出かけました。目的はオオセンチコガネという糞虫(ふんちゅう)に出会うことでした。糞虫とは、動物の糞を食べることから、そのように呼ばれている種類です。古代エジプトでは、太陽に見立てた糞玉から生まれてくる聖なる昆虫として、創造と復活のシンボルとされていました。前脚で逆立ちをして、後ろ脚で糞玉を転がす、いわゆる「糞転がし」と呼ばれるスカラベという種がそれに相当しますが、日本では体長2~3ミリメートルほどのマメダルマコガネの仲間4種ほどが糞を転がすことが知られていますが、残念ながらその大きさから観察するのはとても難しく、目に触れる機会はほとんどありません。

オオセンチコガネは、体長16~22ミリメートルで日本全国に広く分布していて、姫路科学館の周辺でも見ることができます。大きな特徴として、ぴかぴかの十円硬貨のような金赤色の強い金属光沢を持っていることです。京都・奈良へ出かけた大きな理由は、オオセンチコガネが地域によって緑色や瑠璃色となっているので、色の違うものを見るためでした。京都では緑色で、産地として有名な山科区の牛尾山へ出かけました。

実は昨年も同じ時期に出かけたのですが、相次ぐ台風の被害で、山へつながる道路が封鎖され登ることができませんでした。今年は道路も通行が可能でしたが、昨年の被害の爪痕は大きく、牛尾山にある牛尾観音の参道にあった大きな木製の鳥居は撤去され、すぐ下にあったトイレも見当たりませんでした。車を駐車スペースに停めて参道をあがっていくと、緑色をしたオオセンチ

コガネに出会うことができ感激しました。その後もたくさんの個体に出会い、来てよかったですと思えるひと時を過ごすことができました。その後、宇治市にある天ヶ瀬ダム付近に移動し、緑色の個体に出会いましたが、期待したほどの数ではありませんでした。

次の目的地である奈良公園へ移動する途中、雨粒がフロントガラスに落ちてきて、前方の空が真っ暗な状態になっていたので半ばあきらめかけたのですが、とにかく行ってみようと、現地へ入ると、雲も切れ日差しも少し射してくるようになりました。奈良公園へも昨年出かけた(京都とは違う日)のですが、春日大社の大木が台風によりいくつも倒れている被害を目の当たりにしました。今年は、ずいぶんと整備されていましたが、それでもまだいくつか倒木の跡は見られました。奈良公園には1,300頭を超すシカがいて、一日に約1トンの糞が出るとされていますが、人の手を借りることなく、糞はきれいに掃除された状態になっています。そのきれいな状態を保っているのは、瑠璃色をしたオオセンチコガネをはじめとする糞虫たちの活動の結果なのです。



【緑色をしたオオセンチコガネ】

奈良公園では、オオセンチコガネが糞を自分の好みの場所へ移動させる様子を観察し、動画に撮ることが主たる目的でしたので、あちらこちらと歩き回りました。実は、このオオセンチコガネは糞を転がさず、前脚で後ろへ引きずって目的地へ運んでいくのです。その様子は、姫路科学館で休日におこなっている「自然のおはなし会」で、動画を使い紹介しており、来館されたお客様もびっくりされています。

一日で数か所を移動するのは、大変エネルギーのいることでしたが、目的を達成できたことによる疲れは心地良いものでした。オオセンチコガネについては、姫路科学館が発行しています「科学の眼」No.538で紹介しています。ホームページでも見ることができますので、是非ともご覧ください。また、不定期ですが休日の「自然のおはなし会」で『森のおそうじ屋さん～うんちを食べる昆虫～』としてお話をさせていただいております。こちらもご来館の際にはお聞きいただければ幸いです。

(友の会常任理事 姫路科学館館長 高橋康範)

<姫路科学館友の会の情報>

○2019年度会員の状況 2019年10月22日現在

| | | |
|--------------|--------------|-----------|
| ・全期一般会員 293名 | ・全期子ども会員 25名 | ・賛助会員 0法人 |
| ・後期一般会員 18名 | ・後期子ども会員 2名 | 総数 338名 |

○姫路科学館友の会研修会「コーヒー教室」

姫路のみゆき通りにあるコーヒー専門店「はまもとコーヒー」の浜本卓弥さんを講師に、コーヒー教室を開催します。浜本さんは、お店でコーヒー教室を開いています。その受講生が2,000人を突破したことが新聞記事になりました(2018年1月)。また、学校の「あすなろ教室」でご存じの方が多いいらっしゃるかと思います。

浜本さんのお話を聞きながら、会員の皆様方と楽しいひとときを過ごしませんか。

- 1 日時 2019年11月13日(水) 10:00~11:30ごろ
- 2 場所 姫路科学館4階 工作室